

第5回 小川晶 保育ゼミ通信

R5.3.7 保育センター発行

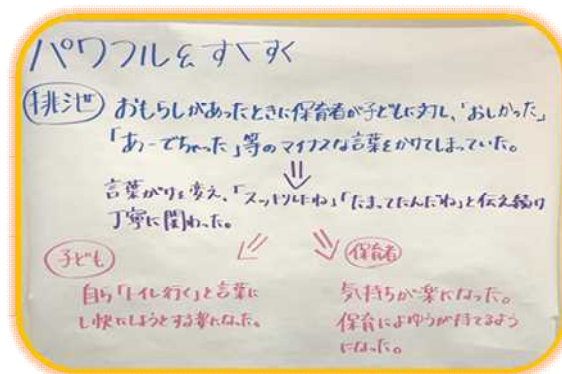
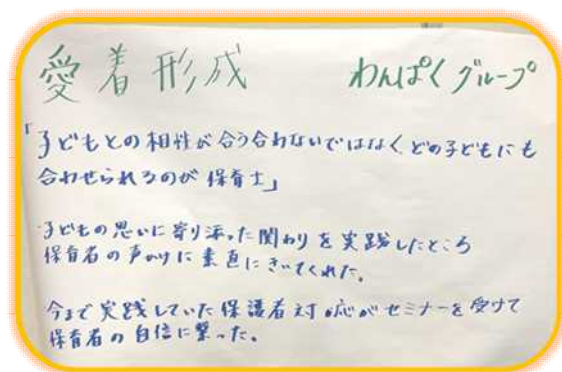
全5回のゼミもあつと言う間に最終回となりました。最終回は、これまでの小川先生の講義を受けて、子どもの捉え方や、保育がどう変わったかについて受講者が報告を行いました。最後には、小川先生から保育で大事にしてほしいことをお話していただき、今後の保育に向けて活力を得られる研修でした。

ゼミを受けて「実感を得られたこと」

(全グループの発表やアンケートから抜粋)

- 全てのことに愛着形成が繋がっていると感じるようになった。
- 保育環境や子どもへの声かけを変えたことで、気持ちが楽になり、保育に余裕がもてるようになった。
- すぐには変えられないことも、来年度の目標や課題としてあげることができた。
- 自分の保育観の再確認ができて、保育に自信がもてるようになった。
- 不快を快にする関わりを担当者が行うことで、より安定して子ども達が過ごせている。
- おまるの設置がきっかけで、子ども達が自然と排泄の自立に向かうようになった。
- 「スッキリしたね」等の共感の言葉かけを今まで以上に意識するようになった。
- 園全体で考えていく機会が増え、先生たちの意識が高まり、子どもたちの育ちのためにより良い方法を考えられるようになり、チーム力が高まった。

学びや実践を言葉にして伝え合うことで、実りある発表になりました。



保育で大事にしてほしい3つのこと

1年間、0，1，2歳児の「愛着形成」「食事」「あそび」「排泄」について学んできましたが、最後に、保育で大事にしてほしい3つのことについてお話をいただきました。

①「まずは、やってみる」

新しいことをやろうとする時、色々で見積もり過ぎてやらないのではなく、失敗してもいいから、“子どものために”まずはやってみましょう。

上手くいかなかったことは、ミーティングをして振り返り、次に繋げていきましょう。

愛着形成をして日々子どもと関われる専門家は保育士と保育教諭だと思って、やってみてほしいと思います。

②「保育はチームで」

保育士は、子どもがこれからの人生をどう生きるかの基礎を作ることに関わります。

子どもへの関わり、投げ掛けている言葉等について、適切さ、正しさ、妥当さを複数の目で確認していきましょう。

保育士だって人間同士。気の合う合わないがあったとしても、絞ったテーマに向かって話をし、話をしたことを1つ1つ貼り合わせていけると良いです。

③「1人ひとりの個性に合わせて」

保育士は、子ども達と集団で過ごす中でも、1人1人のことがよく分かり、関係構築できる存在です。その子どもに合った伝え方、展開をすることで子どもの姿は違ってくるので、一斉に動かすことを目的にせず、その子どもの育ちを見ていきましょう。

発達や個性に合ったことをしていけば、自然と集団になる時期がきます。

受講者の感想

研修を受けるだけでなく、その内容を実際にどのように園に取り入れていくかを考えたり、実際に試したりしていくことができ、保育の現場と繋ぎ合わせていくことができた研修だった。

【和光リトルスター保育園

上原先生】

愛着形成の専門家として意識を高くもてた1年間でした。1年間を通して、間隔をあけての研修だったので、学んだことを実践して、その結果どうだったか一連の流れをグループディスカッションすることができて良かった。

【ひだまりの保育園 武井先生】

改めて担当制が子どもを主体とした尊重する保育に向けた取り組みだと感じた。愛着形成は保育者次第で質を上げることも下げることもできてしまうものなので、1人1人としっかりと向き合い、1人1人に合わせて関わっていききたい。

【リトルスター保育園さつき

ちゃんのおうち 福島先生】

皆様と共に学ぶことができ、とても楽しかったです。1年間、ゼミへのご参加ありがとうございました。ゼミで学び・体感されたことを日々の保育に活用していただけますと幸いです。（保育センター 保育士 渡部）